様式 8

学位論文の要旨

論文題名

Life Satisfaction and Participation of Older Adults with Care Needs Who Live at Home
-Analysis Focused on Occupational Gap-
在宅で生活する要支援・要介護高齢者の生活の満足度と参加
－作業ギャップに焦点を当てた分析－

氏名　　見須　裕香　　学籍番号　　9720102

主論文

タイトル

Factors Affecting the Life Satisfaction of Older People with Care Needs Who Live at Home
（在宅で生活する要支援・要介護高齢者の生活の満足度に影響を及ぼす要因）

掲載誌名, 巻, 頁, 年号
Geriatrics 7(5), 117, 2022

要旨

2021 年 9 月時点における日本の高齢化率は 29.1%と過去最高となった。日本人の平均寿命と健康寿命はいずれも延伸を続けているが、その差は過去 10 年間ほとんど変化していない。加齢による身体機能の低下は避けられないことから、健康寿命を「健康上の問題によって日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義し、その原因を心身機能や身体構造に起因するものとして認識している限り、この差を埋めることは困難であると予想される。

国際生活機能分類においては、心身機能や身体構造が改善しなくても、個人因子や環境因子の相互作用によって参加を促進することが可能とされている。これは、心身機能や身体構造の改善が困難であっても、生活機能を改善し、対象者が満足した生活を継続できる可能性があることを意味している。これらのことは、加齢に伴う心身機能の低下が避けられない高齢者や心身機能の向上が困難な高齢者も例外ではなく、健康を維持して満足した生活を継続するためには参加を支援していくことが重要となる。しかし、在宅で生活す

る要介護高齢者を対象としたリハビリテーションにおいては、心身機能の改善を目的としたアプローチに偏っていることが報告されている。今後も在宅で生活する要介護高齢者の増加が見込まれることから、要介護高齢者のリハビリテーションにおける新たな価値を見出し、実践するうえで、どのような参加の在り方が要介護高齢者のより良い生活に寄与するかを明らかにすることが課題となる。

リハビリテーション領域において、参加は実行状況や能力で評価されることが多い。しかし、生活の満足度向上を目的としたリハビリテーションにおいては、その人が行いたい活動や必要としている活動を行っているかという参加の質的な側面に着目することが重要である。本研究では、対象者が行いたいことや必要としていることと実際に行っていることとの間に生じる活動のギャップすなわち作業ギャップに焦点をあてている。本研究では、身体機能が低下し、介護を必要とする高齢者の生活の満足度に対し、作業ギャップに着目した参加の在り方がどのような影響を及ぼしているかを明らかにすることを目的とした。

第 2 章では、作業ギャップの評価が可能な Occupational Gaps Questionnaire (OGQ) の日本語版（OGQ-J）を開発した。OGQ は、Instrumental activities of daily living (IADL)、余暇活動、社会活動、仕事および仕事に関連する活動の 4 つの領域における 30 の活動項目から構成されており、各活動項目に対して「この活動を行っていますか」「この活動を行いたいですか」の２つの質問に「はい」か「いいえ」で回答する自己記入式の質問紙である。回答のパターンによって「行っている・行いたい」「行っていない・行いたくない」というギャップのない活動、「行っていない・行いたい」「行っている・行いたくない」というギャップのある活動の 4 つの作業ギャップパターンを評価することが可能である。OGQ-J 開発の手続きは、言語的に妥当な評価尺度の翻訳版を作成する際に標準的に用いられる手順に準じて実施した。まず、OGQ 英語版を日本語へ翻訳した後、逆翻訳を行い、原著者とも協議のうえ OGQ-J 暫定版を作成した。次に、20 歳代から 60 歳代までの健常成人 36 人（平均年齢 31.67±15.08 歳）を対象にプレテストを実施し、OGQ-J 暫定版の言語的妥当性の検証を実施したうえで、日本の文化に適応した OGQ-J を開発した。その後、OGQ-J を用いて要介護高齢者 126 人（平均年齢 79.33±7.51 歳）の作業ギャップを測定し、ラッシュ分析を用いて心理測定的検証を行った。その結果、OGQ-J の信頼性と妥当性が確認された。日本の文化に適応した OGQ-J の開発と検証により、対象者の参加状況や能力だけでなく、行いたい活動を行っているかという参加の質的側面の評価が可能となった。先行研究においては、作業ギャップと生活の満足度の関連が報告されているが、要介護高齢者の作業ギャップを各領域、各作業ギャップパターンにおいて検討した研究はなされていない。

第 3 章では、要介護高齢者のより良い生活を支援していくうえで重要となる作業ギャップの特徴を明らかにすることを目的に、第 2 章で開発した OGQ-J を用いて要介護高齢

者 209 人（平均年齢 80.10 歳±7.51 歳）の作業ギャップを評価した。集計の結果、「行っている・行いたい活動」としては、「テレビやビデオを見る、音楽やラジオを聴く（90.4%）」、「情報を得る（87.1%）」などの身体的負担や社会的役割が少ない活動を多くの人が選択した。一方、「行っていない・行いたい活動」としては、「旅行（38.8%）」や「文化活動への参加（28.7%）」など、社会活動や余暇活動を選択した人が多く、「行っている・行いたくない」活動としては、「掃除（11.0%）」や「洗濯（10.0%）」などの IADL を選択した人が多い傾向にあった。脳卒中者を対象とした先行研究と比較すると、本研究の対象者が知覚している作業ギャップの割合は低かった。身体機能の低下や介護が必要になったことで、参加への興味や関心、意欲が低下し、行いたい活動の数が減少している可能性も考えられる。

第 3 章では、要介護高齢者における領域ごとの作業ギャップの実態が明らかになったが、どのような作業ギャップの特性が生活の満足度を決定づけているのかは明らかになっていない。生活の満足度を高める参加の支援のあり方を検討するため、第 4 章では、OGQ-J で測定した各領域における作業ギャップと生活の満足度の関連に注目した。要介護高齢者 209 人（平均年齢 80.10±7.51 歳）を対象とし、OGQ-J の各領域の各作業ギャップパターンと基本属性（年齢、性別、要介護度）が生活の満足度をどのように分類するのかについて明らかにすることを目的に決定木分析を実施した。その結果、要介護高齢者の生活の満足度を分類する上で最も重要な要因は「行っている・行いたい」社会活動の数であり、次に重要な要因は「行っていない・行いたい」IADL の数であることが明らかになった。この結果から、要介護高齢者の行いたい社会活動や IADL を促進することで、生活の満足度向上に寄与する可能性が示唆された。先行研究では、作業ギャップと生活の満足度に正の相関が示されており、作業ギャップの数を減らすことが重要とされている。しかし、行いたい活動を減らすことによる作業ギャップ数の減少ではなく、行いたい活動の数を増やすことが良好な生活の満足度にとって重要であることが示された。これらのことから、行いたい活動を増やし参加することによる作業ギャップの数の減少が生活の満足度を高める要因になることが示唆された。

第 5 章では、第 4 章の結果から、作業ギャップのなかでも「行っていない・行いたい活動」の数に着目し、生活の満足度に影響を及ぼす要因を明らかにすることを目的に多変量解析を実施した。解析では、作業ギャップの数に加え、生活の満足度に影響を及ぼすと考えられる要因として、機能的自立度、環境因子（物的環境、人的環境、社会的環境）、健康生成論の中核概念である Sense of coherence を含む個人因子を説明変数、生活の満足度を目的変数とし、年齢、性別、経済状況で調整したロジスティック回帰分析を実施した。その結果、環境因子（OR: 4.41, 95%CI: 1.52-14.11, p=0.0083）と作業ギャップの数（OR: 0.90,95%CI: 0.99, p=0.0352）に有意差が認められ、これらの要因が要介護高齢者の生活の満足度に影響を及ぼす要因であることが明らかになった。これらの結果か

ら、要介護高齢者の生活の満足度を良好に維持するためには、心身機能や身体構造の改善を目指すだけでなく、物的、人的、社会的環境を整え、身体機能の低下があっても行いたい活動に参加できるよう支援するリハビリテーションの重要性が示唆された。

加齢に伴う身体機能の低下や介護が必要な状態であっても、行いたい活動に参加することで満足した生活を送ることができる可能性が示されたことは、要介護高齢者を対象としたリハビリテーションの発展に寄与する重要な情報を提供することができたと考える。

キーワード

Life satisfaction, Occupational gap, Participation, Environmental factors, Older adults with care need

(生活の満足度、作業ギャップ、参加、環境因子、要介護高齢者)